



2012 中富良野町勢要覧

クリーンな未来が 輝きはじめています。

ラベンダーの香るなごみのまち、中富良野町。北海道のほぼ中央、十勝岳山麓に広がった美しい自然が広がるこのまちでは、たくさんの彩りに満ちた個性が、大地で素敵に輝いています。でもそれは、きらびやかに飾り立てられたものではなく、朝陽を浴びてきらめく、新緑に落ちたひとつずくの露のように、清らかで純な輝き。その輝きは、まちを訪れる人のこころをなごませ、素直してくれます。

クリーン農業やクリーンな環境づくりの展開をはじめ、まちはさまざまなクリーンの可能性を追求し続けています。その取り組みが、人のこころもクリーンにしてく

れているのかもしれません。

「ともに目指そ^う元気で安心なまちづくり」、「創造します大地の恵みを生かすまちづくり」、「ともに育む心豊かに個性輝く人づくり」、「進めよう安全で自然豊かなまちづくり」、「みんなで創ろう明るく住みよいまちづくり」。中富良野町では、このようなまちづくりの5つの基本目標を定めています。そして住民みんなが協働の精神のもと、クリーンな未来を創り上げようとしています。

さまざまな場所で受け継がれてきた中富良野町の輝きは、大きな光となつてこれから、次代を明るく照らします。

HOKKAIDO NAKAFURANO



中富良野米味わって! お米祭り

中富良野産の安全でおいしいお米を、できるだけ多くの人々に味わってもらいたいという熱い想いのもと、水田農家が手づくりでお米が主役のイベントを企画。収穫を迎えた10月に開催されている「お米まつり」では、新米を使ったおにぎりやカレーの試食はもとより、地元野菜をふんだんに使ったスープやつけもの、米粉のシフォンケーキなど20種類を超えるメニューが提供され、手づくりによる地元産のあたたかい味わいを広げています。



恵大地のみ

中富良野の豊かな大地で丹誠込めて育まれた旬の恵みをそのままに。また、素材の良さをぎゅっと凝縮して、他にないここだけのオリジナルの味わいに。1株から1個だけという特選スイカ「完熟マドンナ」や「まつ赤なえくぼ」、メロン、カボチャ、スイートコーンをはじめとする農産物から、地元産の品々を個性的なティストで仕上げた加工品まで、中富良野には、笑顔を広げてくれる、実に多彩なおいしい特産品があふれています。

ほんのりゆつくりこころを和ませてくれる。クリーンな環境から生まれた中富良野の特別な逸品たちには、そんな素敵な滋養がたっぷりと込められています。



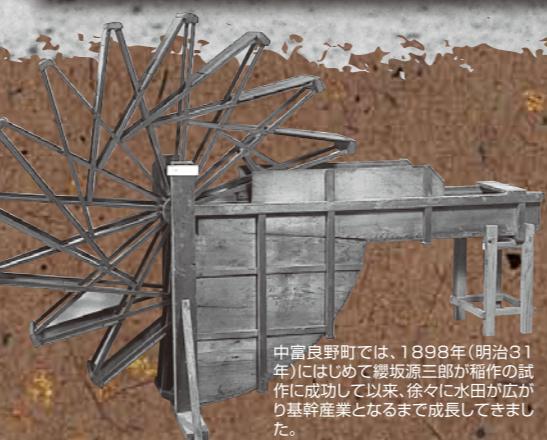
地酒に酔いしれる 地酒祭り

中富良野ではクリーンな環境を生かして、おいしいお酒も造られています。クリーン米「ゆきひかり」を原料とした、アトピーなどのアレルギーにも優しい純米酒法螺吹、吟醸酒紫の葉。中富良野産ぶどう100%のワイン「かおりの赤」「めぐみの白」。地元産ビール大麦を使用した「サッポロビールクラシック」などのお酒を楽しもうと、毎年、なかふらの酒造振興会が新酒が造られる2月に「地酒まつり」が開催されています。地元産のお酒と歌に酔いしれる冬の1日として町内外のお客さんから喜ばれています。

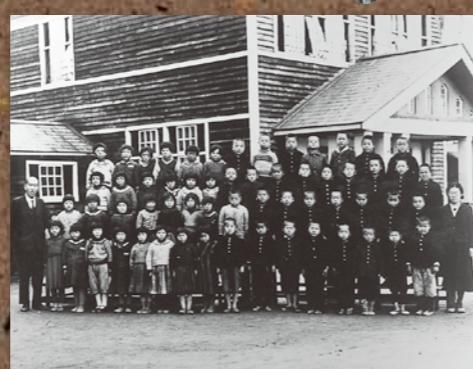
自らの手で切り拓いた大地に希望の種をまき、大地にしっかりと根を張り、手を取り合って力強くまちを創り上げていった先人たち。まちを愛するその思いは脈々と受け継がれ、今もまた、中富良野の大地には、いくつもの希望の種が芽吹き、新しい時代へと幹を伸ばし続けています。



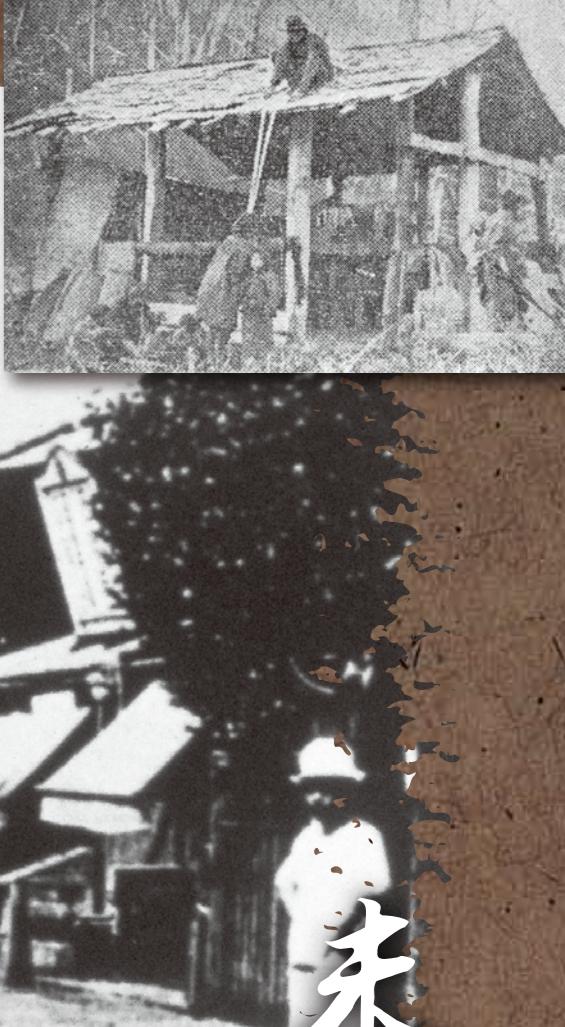
戦後復興を経て、まちには再び活気が戻ってきました。祭りでは、子ども御輿など賑やかに行われ、人々の楽しみとなっていました。



中富良野町では、1898年(明治31年)にじめて綾坂源三郎が稻作の試作に成功して以来、徐々に水田が広がり基幹産業となるまで成長してきました。



開拓において馬は、耕作のブラオや冬場の馬橇を曳いたり、運搬などの力仕事に欠かすことのできない存在として、大切にされていました。



1895年(明治28年)、富山県人の伊藤喜太郎の入植により、中富良野の歴史は幕を開けました。その後、福井県や石川県をはじめ本州からの入植者が続々、未開の地は徐々に拓かれていきました。さらに1900年(明治33年)、十勝線(現JR富良野線)が下富良野駅(現JR富良野駅)まで開通し、中富良野駅(現JR富良野駅)まで開通し、中富良野駅(現線)が設置されると、ここを中心市街地が形成され、ぎわいを見せはじめました。

1917年(大正6年)には、上富良野村から分村し、二級町村中富良野村が誕生、さらに1923年(大正12年)には一級町村制が施行されました。さらに高度経済成長の福音が空高く響いた1964年(昭和39年)、町制施行によ

未来への歩み

1895年(明治28年)、富山県人の伊藤喜太郎の入植により、中富良野町として大きく羽ばたく時を迎えます。

一方、基幹産業の農業では、水田から野菜や果樹栽培への転作が進んだほか、ラベンダー畑も広がりを見せはじめ、観光地としても注目されるようになります。

教育や医療・福祉、生活環境の整備なども進められ、先人たちが行ってきたよう、手を取り合う協働の精神のもと、新しい時代に向けたまちづくりが展開されました。そして今も、自然とともに生きる心地よい環境を大切にしながら、活気と希望に満ちあふれた輝く未来への足跡は、しっかりと刻み続けられています。



安心して食べてもらえる、安全な食づくり。
中富良野町では、早くから「クリーン農業推進の町」宣言をし、
「環境にやさしい米づくり」を合い言葉に環境保全型の農業を追求し続けてきました。
そして今も、生産者が手を取り合い、
こだわりを持ちながら「クリーン農業」の取り組みを進めています。



豊かな大地

水稻の試作に成功して以来、稻作を中心とした農業が展開されてきた中富良野町では、米の減反政策により、野菜や果樹栽培への転作が進み、玉ねぎやアスパラガス、カボチャ、スイカ、メロンをはじめとする畠作が広がりました。そのような中、中富良野町の稻作経営者が集い、これからの方針性を話し合い、1988年（昭和63年）に、3地区の集団による減農業、有機栽培モデルの稻作集団を結成。「売れる米づくり」からの転換を図り、「環境にやさしい米づくり」への挑戦をはじめました。クリーン米への取り組みが、ここに産声を上げたのです。

その後、理想的なクリーン米への研究を進めながら他の稻作経営者たちへも広く参加を呼びかけ、希望の苗が育まれていきました。いっぽう中富良野といえば、「ラベンダー」と言われるほどラベンダー観光の発祥の地として有名ですが、中でも1977年（昭和52年）に富田ラベンダー農園が全国に紹介されから躍、脚光を浴びることになり、現在の「ファーム富田」には、シーズンを問わず多くの観光客が足を運んでいます。この他にも、フラワーパーク、町営ラベンダー園、彩香の里、ジンギスカン＆ふれあい牧場ひつじの丘をはじめ富良野には、大地がくれた自然のパレットに、色とりどりの絵の具たちが思い思いの彩りを添えています。





威勢良くかけ声を上げながら練り歩く御輿の登場で、祭りはさらにヒートアップ。子ども御輿も大人に負けず元気いっぱいです。



みんなで盛り上がる中富良野の魅力が詰まった旬のひととき。

若者たちの手によりはじまり、

今やまちを代表する一大イベントにまで成長した「ラベンダーまつり」、

白銀のフィールドに歓声がこだまする「ワインターフェスティバル」と、

中富良野のイベントは華やかにまちを彩っています。



中富良野のまちにラベンダーのやさしい香りが広がり、丘も美しい紫一色に染まる頃。ラベンダーの開花時期に合わせ7月1ヶ月間で各種イベントが行われる「ラベンダーフェア」が開催されます。

この「ラベンダーフェア」は2010年(平成22年)から開催され、期間中にはジャズライヴ、夏の雪まつり、花畠めぐりラン、フリーマーケット、JAZZふれあい広場などといった催しが行われ、街中みんなで盛り上がります。また7月末には「ラベンダーまつり」が行われます。

この「ラベンダーまつり」は、まちの活性化を図る上でも「地元のまつりは自分たちの手で」と若者たちが集い、1981年(昭和56年)に「ラベンダー商工まつり」として始められたもの。手づくりの開催だったもの的好評だったことから翌年も続けられ、さらに年を追う毎にパワーアップを続け中富良野を代表する一大イベントにまで成長、ラベンダー観光の基礎ともなりました。

町営ラベンダー園・フラワーパークを会場として行われる各種イベントのほか、メインイベントの花火大会では、北星山のラベンダーをバッケット、JAZZふれあい広場などといつた催しに、さまざまな花火が夜空を華やかに彩ります。

にぎわいの丘



雪と氷の滑り台はちびっ子に大人気。ワインターフェスティバルの会場には、雪像も溶かすほどの熱気と、あたたかい笑顔があふれています。





学びの森

ひとつづりは、将来のまちづくりにとって大きな糧。中富良野町では、「学遊花人 心豊かに学び 明日のふるさとをともに創る人を育む」を基本理念として、健やかな個性と郷土を愛する心を育むとともに、地域の特性を活かしながら、生涯学習により健康で心豊かに生きがいを感じることができるまちづくりを推進しています。

社会の変化に対応した新しい学校教育のあり方が模索されている中、中富良野町では、各学校において豊かな自然や地域の特性を取り入れた教育が展開され、家庭・地域と連携した学校行事やボランティア活動、地域の人材を活用した体験学習などにも積極的に取り組んでいます。また、学校間の連携による集合学習や、児童と児童の交流、小学校と中学校の連携を進めるとともに、教育効果を高める指導体制の整備や特別支援教育に力を入れ、生きる知恵につながる確かな学力と、郷土愛に満ちた豊かなこころと健やかな体を育む教育を進めています。

社会教育では、町民の皆さんのが健康で生きがいある人生をおくることができるよう、生涯各期における自主的な学習環境づくりと学

校・家庭・地域社会が連携した地域の教育力向上を図り、住民との協働による生涯学習のまちづくりを実践しています。さらに、生涯学習の拠点となる公民館や図書館・社会体育施設の整備充実を図り、多様なニーズに対応した社会教育事業を進めています。また、豊かな感性を育み、生活に潤いを与える文化芸術事業や誰もが生涯の各期にわたって、年齢や体力、目的に応じて、いつでも、どこでも主体的に活動に親しむことができるスポーツ事業にも取り組んでいます。

各分野の教育活動を進め、子どもから高齢者まで元気な声や笑顔が広かり幸せを実感できる「なかぶらの」をめざして協働のまちづくりを開拓しています。



安らぎのまち

幾つになっても健康で元気に暮らしたい。誰もが思う願いでしょう。また、高齢化社会が進むにともない、福祉の果たす役割はさらに高まっています。だからこそ中富良野町では、人と人のあたたかいふれあいを軸に、保健・医療・福祉がしっかりと連携しながら、充実したサービスの提供に努めています。

少子高齢化が進み、町民の健康や福祉に対する意識がますます高まる中、中富良野町では、多様化、高度化する社会福祉需要に保健・医療・福祉が一体となった取り組みを展開しています。

住みなれた地域でいきいきと暮らすために、また、健やかに生まれ、健やかに老いるために「自助・共助・公助」の考え方のもと、「住民みんなで育てる『福祉文化のまち』なかふら」を理念としています。そして保健・医療・福祉サービスの充実に努め、健康づくりや予防医療、地域福祉など、一人ひとりが思いやりを持つて、誰もが安心して健やかに暮らせる元気で安心なまちづくりを進めています。

保健の分野では、健康増進計画や特定健康診査等実施計画に基づき、肥満の予防、運動習慣の推進、生活習慣病予防など健康づくり施策を関係団体などと連携して推進しています。また、妊娠期からの健康診査・個別指導をはじめ、健康教育、健康相談、保健指導、栄養指導、予防接種など母子保健の充実に努めています。

医療の分野では、中富良野町の医療の中心

となる町立病院が、痛みの治療(ペインクリニック)や町民の各種検診など、疾病の早期発見や予防に努めています。また、身体の不自由な方で交通手段の確保が難しい患者に対応する無料送迎など、患者の立場にたつた医療サービスを図っています。

福祉の分野では、地域包括支援センターを総合相談窓口として、高齢者の様々な問題を把握し、介護保険事業とともに、認知症予防事業、転倒予防事業、水中運動教室など高齢者が健康で安心して暮らせるサポート体制の充実に努めています。

また、障がい者計画・障がい福祉計画に基づき、ノーマライゼーションの理念の一層の浸透をはじめ、相談・情報提供体制や各種サービスの充実を目指しています。

このほか、次世代育成支援行動計画に基づき、中富良野保育園では一時保育や乳幼児保育の充実など、多様化する保育ニーズに対応した、保育サービスを図っています。また、併設の「子育て支援センター」では育児不安などの相談活動や子育てサークルの支援・育成など充実した育児支援に努めています。



NAKAFURANO PROFILE 町の素顔

町 章



外周のデザインは稲の豊作、中心は中富良野町の頭文字の「中」の字で平和を表しています。中心の「中」と、稲の根元に富士の形の山で、「富」を表現し、中富良野町を象徴しています。

この町章は、1962年(昭和37年)4月1日に村章として制定され、1964年(昭和39年)5月1日の町制施行に伴い町章となつたものです。

町名の由来

中富良野は、アイヌ語のフーラヌイがフラヌイとなり、臭くにおう泥土、または腐れ泥を意味するもので、十勝岳から流れる硫黄臭くにおう川が河道の定まらない湿地帯となり、開拓前のあたかも腐れ泥の態をなす泥炭地帯のこのあたりを表現したものが地名となり、振縫、または富良野原野とよばれ、その中心が本町なのでこの名がつけられました。

地 勢

町の中央部は平地で、東北から南西に向かって緩やかな傾斜を持ち、丘陵部は畑地帯、平坦部は水田地帯です。東方に国立公園大雪山系十勝岳を主峰とする富良野岳、西方には道立自然公園の芦別岳を主峰とする夕張山脈が南北に縦走しています。

人 口

総人口は5,521人、総世帯数は2,193世帯。
(平成23年12月末現在)

氣 象

内陸性気候に属し、夏期は30度、冬期はマイナス25度前後で、積雪は平野地で約1メートル。夏の寒暖の差が農作物に適しており、恵まれた気候・風土となっています。

町 民 憲 章

わたくしたちは、秀麗な十勝岳の山なみを仰ぎ、豊かにひろがる緑の大地と清流に恵まれた中富良野の町民です。

わたくしたちは、きびしい風雪に耐えて原始の樹木をきり開いた先人のたくましい進取の気性を受けつぎ、輝く未来を築く人間性ゆたかな町民となるために、この憲章を守りましょう。

- 勤労を尊び、生産を高め、報恩感謝の心をもちます。
- きまりを守り、道義心をたかめます。
- 祖先を敬い、すぐやかな家庭をきづきます。
- 自然を愛し、心のやすらぐ町をつくります。
- 文化を創造し、健康で明るい社会をつくります。



発行／中富良野町

〒071-0795 北海道空知郡中富良野町本町9番1号
TEL 0167-44-2122 FAX 0167-44-2127
E-mail nakafu@furano.ne.jp
URL <http://www.furano.ne.jp/nakafurano>

発行日／平成24年3月
印刷／株式会社総北海